



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



豪商稲葉本家で個展を開催

ありふれた言葉も字にすると発見が！



柔らかい絵に、心の言葉が並ぶ

絵手紙につづる 心の言葉

心の中の言葉探して、新たな自分を再発見…。趣味の絵手紙が高じて、個展を開催するに至った、元気な女性を紹介します。

たねのいくこ
種野郁子さん(出石町川原)

「絵のある手紙」…絵手紙。巻紙などに身近な絵を描き、相手に伝えたい気持ちを言葉で添えます。種野郁子さんは、絵手紙に、心の言葉を表現することを楽しんでいきます。

趣味探し

社会人になり、仕事以外で何か趣味や特技を身に付けたいと考えた種野さん。小学生・中学生時代に、書道教室に通っていたこともあり、書道を再開しました。「私にとって、書道(近代詩文書)の醍醐味は、自分の言葉で表現することです」と言い切ります。

また、家業の関係で、篠山市で絵手紙を教えている方と知り合いだったことから、2年前から、絵手紙を始めました。「絵手紙には、絵・字・言葉が必要ですが、その中でも言葉が一番大切です。時には思い切った心の言葉を字にします。言葉をイメージし、考えているときが一番楽しいです」と魅力を語ります。

「情報があふれる毎日だからこそ、心をクリーンに保ちたいです。日々の情報をリセットし、執着心を持たずに、冷静に、できる限り心を無に

置くことを心掛けています。この気持ちが、絵手紙に影響しているかもしれません」と自身の絵手紙を見つめます。

個展の開催

自身のことを、行動力は全くないが、書と絵手紙の誘いは断りません」と話す種野さん。仕事の関係で付き合いのある方から、「豪商稲葉本家(京丹後市)で、個展を開催してみないか」と誘われました。種野さんは、自身の腕前は十分でないと思いつつも、気軽に個展の誘いに乗ってしまいました。

しかし、個展の開催を決めたものの、種野さんの手元には、これまでの作品はあまりありませんでした。「作品を人にもらってもらうことがうれしく、それが次の創作の力になる」として、人に譲っていたからです。

そこで、今回の個展のために、新たに20点の絵手紙作品を作りました。「開催日が近付くにつれて、『完成させなくてはいけない』というプレッシャーで、眠れぬ夜が続きまして。開催中も、興奮して睡眠不足でした」と苦笑いします。

また、会場は、豪商稲葉本家。「このような歴史的建造物で個展を開けるなんて、身の引き締まる思いでした」と振り返ります。

個展が終わり、種野さんの元には、「絵手紙を譲ってもらえないか」「個展を開催してほしい」「絵手紙を教えて」と多くの反響が。「一生徒として楽しんできたことが、こんなに多くの方の心に届くなんて、本当に幸せなことですよ」と、うれしそうに話します。

今できることを精一杯

今後については「考えていません。今、頼まれている書や絵手紙を、コツコツと、心を込めてかいていくことです。たくさんの方に、絵手紙を送りたいです」とのこと。また、「楽しくワクワクしながら、絵手紙を続けてやっていくだけです。続けていければ、今回の個展で、いろいろな出会いがあったように、何か違った面白いことに出会えるかも知れませんね」と胸を膨らませていました。

※近代詩文書：漢字とかなを素材とした書道の一つのジャンルの呼称

学校探検

中学校編 ④

城崎中学校 (城崎)

案内者 木下拓昭くん(左)・
長谷川龍也くん(右)(3年1組)



城崎中学校の在校生は88人で、学校教育目標に「ふるさとに学び、挨拶と礼節を重んじ、生きる力を身につけた生徒の育成」を掲げています。

同校生徒会長の木下拓昭くんと副会長の長谷川龍也くんは、2人そろってポーター部に所属しています。部員は22人。



木下くんと長谷川くんは、5人乗りのクオドルプルで、日頃からお互い切磋琢磨して、練習に取り組んでいます。今回は、木下くんと長谷川くんが城崎中学校を紹介してもらいました。

特徴ある取組みとして、「あいさつ立ち番」があります。

毎朝、学校の中庭に生徒会執行部が立ち、あいさつをします。毎朝行ううちに、返ってくるあいさつが、次第に大きく、元気良くなつていくのを実感できます。

「プロジェクトC」(「C」はClean, communityの意味)では、清掃ボランティアとして、毎年1回、城崎小学校の児童や地域の方々と協力して城崎のまちをきれいにしています。この取組みによつて、地域の方とも顔見知りになり、親子が深い



▲プロジェクトCの活動の様子

まることは、とても良いことだと思えます。

「フラワープロジェクト」では、学校を花で飾るため、花を育てています。学年ごとに違う種類の花を育て、当番制で水やりをしています。水やりをするようになってからは、登校時に「あの花、まだ咲いてないなあ」など気に掛けるようになりました。

「エコキャップ集め」では、各学年に一つずつ回収ボックスを設置し、1年を通して集めています。集めたペットボトルキャップは、団体に送り、ワクチンの購入に役立ててもらいます。

また、「体育大会のパネル作り」をしています。体育大会が9月にあるため、3年生が中心となつて、夏休み期間中に学校に集まり、約10日間かけてパネルを作成します。パネルはペンキで体育大会の目標を書いたものです。イラストなども入れて、体育大会を盛り上げます。

城崎中学校は、人数は少ないけど、明るく元気いっぱい学校です。これからも元気に活動していきます。

笑顔の輪

ウクレレを楽しもう！(竹野)

子どもからお年寄りまで、多世代で楽しもう

「ウクレレを楽しもう！」は、今年6月に設立したばかりの、今後発展が期待される会です。現在、会員は13人。月に2回程度、竹野地区公民館で練習しています。

代表の明部直身さんは「地域の既存グループがどんどん高齢化し、グループの存続や活動が危うくなつてきている現状に、地域文化の衰退を懸念していました。そこで、年齢や性別に関係なく、また、その活動で、社会の役に立ち、所属する会員も楽しみながら多世代交流ができるものとして



▲練習に励む会員

ウクレレは、①楽器が小さいため、子どもや女性でも取り扱いやすい、②伴奏楽器として、他の楽器に比べて演奏の習熟が簡単、③音色が優しく、音量も小さく、どこでも練習が可能などの理由から、演奏経験の有無を問わず、誰でも、どこでも手軽に演奏できる楽器といえます。

会の練習は数回ですが、「みんなと一緒に弾きましょう」というスタンスで楽しく活動しています。

明部さんは、自身のフェイブックで会員募集を呼び掛けています。「親子2世代、または3世代にわたり、多くの方に参加してもらえたらうれしい。将来的には福祉施設などで、演奏したい」と話しました。見学・入会希望は竹野地区公民館まで。☎47-11071 ※公民館では、若干のウクレレの貸し出しが可能です。